

10/1
2006 No.184
特別定価 **600**
yen

pen

with New Attitude

オランダの旅へ。

いま最も刺激的なデザインは、この国にある！

とし込み付録
オランダの
グラフィック大研究。

Gevle... / blok 8
bogene... : 68 l/m 75
1e verd... : 76 l/m 83
2e verd... : 84 l/m 91





自ら設計した事務所にて。内部構造
を見せるデザインだが、あくまでも
美的にプレゼンテーション。オープ
ンスタジオの気持ちよさに溢れる。

訪れる者を驚かす、それが建築の醍醐味だ。

●1952年ブレダ生まれ。デルフト工科大学卒業。85年ハンス・ファン・ヘースワイク建築事務所を設立。多数の建築協会や建築委員会のメンバーを歴任。アムスの建築芸術アカデミーの講師を10年間務めた。

2007年着工予定、エルミタージュ美術館別館の完成予想図。2つのウイングが展示スペースになる。



エルミタージュは2009年に完成予定。回廊状になって、外から内部は想像できない。



エルミタージュの内部。明るい展示スペースは、広く見渡せるように配慮されている。



ミュージックヘボウに架かる橋。鉄骨の骨組みを、テクニカルにつなぎ合わせている。



中央駅東部に位置するトラム駅プロジェクト。低地にあり、近づくとき突然姿を現す。



建築の名所が並ぶアムステルダム市内にあつて、随所で個性あふれる建造物を発表しているハンス・ファン・ヘースワイク。自身を「ハイテクおたく」と称するとおり、その構造はじつに巧みで、大胆さを感じさせる作品となっている。

代表的なのは、中央駅東部の人気スポット、ミュージックヘボウに架かる橋だ。魚の骨のように見える形状は、「ディテールまで自分でやらないと気がすまない」という性格を表す渾身の作品。また、同じエリアにあるトラム駅プロジェクトでは、バルスターと呼ばれる金属の建材パーツを組み合わせたアイデアを駆使。大量生産できるメリットを活用した。

老人ホームを改装して、エルミタージュ美術館に。

「デザイン優先の設計をするというのも贅沢ですが、コストを抑えるというのも、オランダでは重要視される」コストをかけないというわけではない。むしろ、発想の問題だと言う。構造をあえて見せ、美的にするという手法もあるからだ。その最たる例が、自身のオフィス。鉄骨の内部構造を見せているが、洗練された空間だ。

最新プロジェクトは、エルミタージュ美術館アムステルダム別館の設計。

サンクト・ペテルブルクに本館があるエルミタージュ美術館は、収蔵コレクションが展示しきれず、海外に別館を建設し、展示スペースを確保しようとしている。ロンドンやラスベガスも予定されているが、なかでもアムス別館は最大規模に。斬新なモダン建築を手がける一方、歴史的建造物の改装も刺激的と考えるヘースワイク。

「17世紀のモニュメント的存在となっている、老人ホームをリノベーションする計画です。通りから見ると建物は小さいが、じつは中に入ると奥行きがある。そのギャップに驚かすはず。中と外とで、コントラストのある空間作りをしたいと思っています」

公共施設のデザインは、多くの人が訪れることが最大の目的であり醍醐味。エルミタージュでは、通路がいろんな方向に伸びる楽しさと、広く見渡せる視野で魅力ある空間を狙う。

アムスの都市デザインのスーパーバイザーも務めたヘースワイク。「建物のコンテクスト（前後関係）を常に意識している。建物が周辺の景観と調和しながら、その役割をいかに発揮するか。つまり、建築は個々が単独で存在するわけではないということ。彼の作品が個性の主張だけに終わらないのは、そんなところに秘密が隠されているからだ。